自公「八王子コンビ」存在感

岸田政権で何かと「すきま風」が指摘される自民、公明両党。年末にかけて重要な政策案件が目白押しの中、連携を強化するため人事で一策を講じた。いわく「八王子コンビ」だ。

政調会長人事で一策

無投票で8期目に入った公明党の山口那津男代表は9月30日、国会内の自民党の部屋にあいさつに訪れた。自民党の茂木敏充幹事長が「自公でしっかり連携していきたい」と呼びかけると、山口氏は「そのために政調会長にした。この八王子コンビで」と満面の笑みで紹介した。

山口氏の傍らにいたのは高木陽介政調会長。茂木氏のそばには自民党の萩生田光一政調会長がいた。

ともに東京都八王子市が地元の2人の関係は30年ほど前にさかのぼる。毎日新聞の社会部記者として東京・立川支局に勤務していた高木氏が当時、日野市長選での取材をきっかけに、のちに八王子市長を務めた黒須隆一氏の秘書だった萩生田氏と面識を持ったという。現在はそれぞれ自民の東京都連会長、公明の東京都本部代表を務め、各種選挙で協力している。

茂木氏が「ちゃんと地方のことにも配慮してください」と2人に呼びかけると、萩生田氏は「(八王子は)十分、地方ですから」と応じ、高木氏も「そうそう。(八王子がある)多摩地域は、ほとんど地方と捉えていただいた方がいい」と援護射撃するなど、連携の良さをうかがわせた。

10月4日にあった「国家安全保障戦略」など安保関連3文書を巡る会合後、萩生田氏は記者団に「30年来ずっと一緒に仕事をしてきた。最も息が合うと自負している」と強調。高木氏も「政調会長同士は昔からの関係。しっかりと意見を言い合っていく」と応じた。18日には3文書の与党協議をスタートさせた。

自公の前政調会長だった高市早苗・経済安全保障担当相と竹内譲・衆院経済産業委員長は、政府が4月に策定した緊急経済対策の財源を巡って折り合えないなど「相性が悪い」と見られがちで、両氏の関係を「ハブとマングース」になぞらえる自民関係者もいた。

㊐萩生田氏と㊓高木氏 30年来の仲

㊓公明党の高木陽介政調会長＝兵藤公治撮影
㊐自民党の萩生田光一政調会長＝竹内幹撮影

それだけに八王子コンビへの期待は大きいが、自公両党の懸案は少なくない。世界平和統一家庭連合(旧統一教会)への対応を巡り岸田文雄首相は19日、宗教法人の解散命令を請求する要件に「民法の不法行為」が入り得るとの新見解を表明。山口氏に対し事前に首相から直接の連絡はなかった。ある公明関係者は「『こういう形でやりますよ』というのは自公で連携を取った方がいい」と苦言を呈す。

さらに旧統一教会による高額献金などの被害者救済対策を議論する与野党協議会の設置が19日、自民、立憲民主、日本維新の会の3党国対委員長会談で決まった。21日の初会合には公明党も加わったが、宗教法人の創価学会を支持母体とし、信者からの寄付・献金の制限に慎重な公明にとって制限に積極的な野党側と合意するハードルは高い。

高木氏は与野党協議会について「被害者救済を一刻も早く実現することが大切だ」と強調する一方で、「憲法や法律との整合性をしっかり議論してほしい」と指摘。救済法案の作成にあたっては、憲法に定める「信教の自由」などに配慮し、議論を慎重に進めるよう自民側をけん制した。萩生田氏も宗教法人法に基づく教団への解散命令について「難しい」と述べるなど、解散命令に慎重な公明への配慮をにじませる。公明幹部は「高木氏は舞台回しがうまく、言うべきことは言っている。今までうちにいなかった〝武闘派〟の政調会長だ」と期待を寄せる。

揺らぐ自公の連携を強化し、山積する政策課題をどう解決していくのか――。「八王子コンビ」の手腕が問われる。【皐山嵩】